

「見学会で「自分たちでも建てられるかも!」と感じました。
お願いして良かったなって、それしかなかったですね。最後まで。」



Come Home Story

ご入居後の
お宅訪問
No.032
カムホームストーリー
高知市・Oさま邸
竣工:2013年1月
設計担当:福井 美絵



「自分たちの家族になってくれているような好感が持てました」

雨の日の昼下がり、真っ白な塗り壁が輝くOさま邸を新築したのは、今から約3年前のこと。仕事の関係で長いあいだ離れた場所での生活が続いていたOさまご夫妻は、奥さまが産休に入るころ、旦那さまのご実家でようやくお義母さまとの3人暮らしがスタートしました。お義母さまが育った築50年の大きな家は老朽化が進んでおり、旦那さまは産まれてくるお子さんのことも考えて二世帯住宅に建て替えることを決意。いくつか大きな住宅展示場を見て回りましたが、「ピンとこなかったんです」と奥さま。タイセイホームを知ったのは、月に一度発行されるお施主さまのお家をお借りして行う完成見学会の広告でした。「いいね」と旦那さまも心惹かれ、すぐに資料を請求。奥さまはその時の岡村(お客さまサポーター)からの返信に「ぐっときた」と、親切で押し売りがなく、熱心な対応が信頼につながったと言います。現実的な間取りや大きさ、オーダーされたお施主さまの好みやこだわりが見える見学会で「自分たちでも建てられるかも」と感じ、家づくりへの想いが一気に加速。「初めて行った時から決めていたような気がします」というタイセイホームとOさまの出逢いです。「自分たちの家族になってくれているような好感が持てました」と、スタッフたちとの楽しかった家づくりを振り返る笑顔が、やさしくほぐれます。



「ちょうどいいんです」

何度も足を運んだ見学会で、自然素材を肌と感じ、それぞれのメリットデメリットを勉強してきたOさま。びびり割れや金銭面を考慮したうえで室内環境を優先し、しっくい塗り壁と断熱性に優れたセルロースファイバーを採用しました。もともと付けたかったというリビングのファンの効果もあり、夏は涼しく冬は暖かい室内。木の香りがつくカラッと爽やかな空気が広がっています。すぐ近くで大きなマンションの建設工事があるにも関わらず、窓を閉めると「全然気にならない」と、セルロースファイバーの防音効果も実感しています。



グリーン色の玄関ドアを中心に、それぞれの空間を分けたOさま邸。玄関を入ると右側にキッチンと備えた1LDKのお義母さまが暮らすお部屋があり、左側にはOさまご家族の2階建て住居、玄関正面の廊下に沿って、共用のトイレ、お風呂を配置した間取りです。お風呂への扉は2ヶ所つくり、お互いの空間を横切らずに出入りできる動線。共用でも生活リズムが違うことで使用する時間帯がずれているため、「ちょうどいいです」と奥さま。一日で長い時間を過ごすキッチンは「お互いが自由に使えるように」とそれぞれの空間に設けています。「晩ご飯は必ずいっしょ!」だという仲のいいOさまご一家では、お互いに好きな時に好きなものを調理し、持ち合わせたものを食卓に並べる楽しいお食事が毎日開かれています。ああでもないこうでもない時間をかけて悩んだ間取りでしたが、「いい感じ。不満はないです」と、思い入れの深いわが家に満足気。「おばあちゃん」と元気よく聞こえてくる声にほほ笑むお義母さま。かわいなお孫さんとすぐに触れ合える距離がうれしい、家族が自然につながっていただけるあたたかいOさまのお住まいです。



「お願いして良かったなって、それしかなかったですね。最後まで」

お義母さまのお部屋は、思い出のつまった家からいちごの絵柄が入ったタイル、愛着のあるペンダント照明、「おじいさんが使っていた」というアンティークのコーヒーミルなどの思い入れ深い品々を持ち込んだ自分だけのお城。「お布団などを隠したい」という思いから、コンパクトながらもLDKの奥に寝室を独立させ、そのさらに奥に出し入れを考えると扉をなくしたWICを備えた機能的な住まいに。出しやす〜片づけやすい作りつけのオープン棚は、置くもののサイズに合わせてつくりピタリと気持ちよく収納され、ご家族の写真や思い出のものが並ぶお義母さまの大好きな場所です。ただ、キッチンの蛇口が真ん中にあるため、コンパクトキッチンだけに作業スペースが限られてしまうのが難点だと言います。またお義母さまのお客さまをOさまご家族の空間へ招くことがあり、気を遣わせてしまうことから「玄関から入れるような客間が真ん中にあつたら良かったかも」と振り返ります。塗り壁や照明器具など、見学会で見たものを実際に取り入れた奥さまは、「すごく参考になったから、見学会でいろんな家を見たほうがいい」とアドバイス。相談しやすく好みを分かってくれたと話す福井(設計コーディネーター)の提案がいともドンピシャなことから、「福井さんの言うことは間違いない」と信頼を寄せます。一生に一度の家づくり、思いを十分に伝えられたことが満足につながっています。「お願いして良かったなって、それしかなかったですね。最後まで。」と、うれしいお声を聞かせてくれたOさまご一家です。

